



令和2年度 北海道札幌北陵高等学校経営シラバス

学校教育目

めざす姿

1 自分を開く 2 知を^{ひら}啓く 3 未来を^{ひら}拓く

- 1 他者の考えにふれ、自己を成長させようとする姿勢
- 2 先人の知に学び、視野をひろげようとする姿勢
- 3 新時代の担い手としての使命を探り、社会に貢献しようとする姿勢

スローガン 「自分を、ひらけ。」

1 育成を目指す資質・能力

傾聴力・発信力・協働力・課題発見力・計画力・実行力・主体性・社会性・創造性

2 年度の重点目標

すべての教育活動について育成を目指す資質や能力を生徒に明示し、ICTの活用を図り、生徒が伸び伸びと主体的に深く学べるよう推進する。

3 経営方針

- (1) 学習・指導方法を不断に改善し、各教科だけでなく教科横断的な取り組みを推進する。
- (2) 分掌、学年相互の連携を密にし、組織力を生かした学校経営を推進する。
- (3) 自他の生命と人権を尊重し、いじめを絶対に許さない環境作りを推進する。
- (4) 様々な危機管理事案に迅速・的確・丁寧に対応できる学校体制を確立する。
- (5) 北海道アクション・プランを推進し、効果的な教育活動を行い教育の質を高める。

4 教育課程編成の方針

- (1) 学校教育目標を踏まえ、生徒の人間として調和のとれた育成を目指す。
- (2) 「3ステージ制」を導入し、基礎学力の定着を図るとともに、生徒一人一人の能力・適性・興味・関心、進路希望に応じた教育課程を編成する。

5 重点事項と評価の観点

	重点事項	評価の観点
学習指導	① 学力の3要素がそれぞれ効果的でバランスよく身に付けさせるよう「教科研修」の充実を図る。 ② ICTの活用を検討し「授業力向上」を目指す。 ③ 授業での協同的な活動を通じて対話力を育むとともに、家庭学習を促し、自ら学ぶ主体性を育成する。 ④ 日課の変更に伴う準備を確実に行う。	□ 各教科や校内研修を行い改善が図られたか。 □ さまざまなICT活用の検討を行い、次年度に向け準備することが出来たか。 □ 各授業において協同的な活動や家庭学習を推進し、各種調査において増加が見られたか。 □ 効果的な教育活動を検討し、新たな学習評価等作成し次年度に向け準備することが出来たか。
生徒指導	① 面談等を通していじめや悩み事を把握するなど生徒に寄り添う支援の生徒指導を行い、自主的・自律的な生活態度を育成する。 ② すべての生徒が人権を尊重し、「いじめはしない、させない、許さない」という意識と態度を育成する。 ③ 情報モラルの重要性や責任について考えさせるとともに、情報社会に主体的に関わる態度を育成する。	□ カウンセリングマインドをもって生徒に接し、組織的な支援体制で自主・自律的な行動を促すことができたか。 □ いじめ防止対策委員会において、定期的に情報を共有し、組織的に解決に導くことができたか。 □ Wi-Fiを活用するに当たり、生徒・家庭・学校の三者で実行性のある取組ができたか。
進路指導	① 新たな大学入試制度の情報収集・発信を行い、学校推薦型・総合型選抜の対応を推進する。 ② 系統的な進路指導計画を再構築し、探究活動や進路研究をとおして職業観・勤労観を育成し、主体的な進路活動を促す。 ③ ICTの活用を検討し、ポートフォリオへの対応を確実に行うとともに、各種データの分析を行い個々の進路実現に必要な能力を育成する。	□ 教職員、生徒、保護者に対応した有効な情報発信、英語外部試験への対応、推薦に関する具体的な準備ができたか。 □ 探究活動や各種進路講演会などの取組が効果的に計画・実施され、生徒の主体的な進路意識を高めることができたか。 □ ポートフォリオの具体的な対応や各種模試等の成績データ分析等を適切に行い、各教科が設定した達成目標を実現できたか。
健康安全指導	① 自他の生命を尊重し、自らの心身の健康意識を高め、管理できる力を育成する。 ② 生徒の教育上の問題について、組織として対応し、機動的に解決する。 ③ 危機管理マニュアルに基づき、防犯・防災・交通安全に関する危機管理能力を育成する。	□ 生徒情報交換会や生徒理解支援ツールを活用し、生徒の心身の健康状況を把握や指導ができたか。 □ 生徒の欠席状況や学校での様子について、SCと連携し、教員間で情報を共有できたか。 □ 防犯・防災・交通安全に関する取組を通して、日常の様々な危険について自ら判断し、身を守る能力を高めることができたか。